

モモの樹形と寒凍害の発生

福島県農業試験場会津地域研究支場
平成15年度福島県農業試験場試験研究成績概要

1 部門名

果樹－モモ－生理障害
分類コード 04－02－21000000

2 担当者

勝又治男・永山宏一

3 要旨

会津地方では、モモの植栽2～5年目頃から胴枯れ症状を呈し、枯死する樹が増加しており、この原因として寒凍害の影響が考えられている。このため、主枝の分岐位置や本数の違いと寒凍害の影響について検討した。

試験区は地上50cmまでに主枝を分岐させる4本主枝、地上100cm程度の高い分岐位置の2本主枝、地上50cm程度の低い分岐位置の2本主枝とした。

- (1) 樹体の生育は、幹周、樹高、樹幅とも4本主枝が大きく、高い分岐位置の2本主枝が小さかった。せん定量は低い分岐位置の2本主枝が多く、4本主枝が少なかった。収量は4本主枝が多く、次いで低い分岐位置の2本主枝であった。一果重は2本主枝が分岐位置にかかわらず同程度であったが、4本主枝は小さい傾向が見られた。
- (2) 亀裂やヤニ溢出などの寒凍害の発生は、いずれも6年生で初めて認められた。亀裂は4本主枝及び高い分岐位置の2本主枝では4樹中3樹で、低い分岐位置の2本主枝では2樹に発生した。亀裂の大きさは高い分岐位置の2本主枝で大きく、次いで4本主枝であった。また高い分岐位置の2本主枝は亀裂位置が高い傾向が見られた。
- (3) 以上の結果から、寒凍害の影響は分岐位置の低い2本主枝が小さかった。積雪地帯で雪害対策として分岐位置を高くする場合には、樹勢を低下させないような施肥管理やせん定痕を小さくする早めのせん定が必要であると考えられた。

4 その他の資料等

なし